産業廃棄物のゼロ・エミッション化

事業活動に伴って発生する廃棄物については、3Rによりゼロ・エミッション化を推進しています。2001年度における産業廃棄物排出量はクボタ単体で100,464トンとなり前年度比23%削減し、目標の10%を超過達成しました。また埋立処分量は10,079トンとなり前年度比69%削減しました。このほか、有価物として51,562トン売却しました。廃棄物の有効利用に努めた結果、再資源化率は前年度比8.9ポイント向上し、96.0%となりました。

ゼロ・エミッション化達成工場は、船橋、恩加島、堺臨海、浪速、宇都宮、筑波、久宝寺、市川、鹿島となっており、2005年度全事業所ゼロ・エミッション化達成に向けて推進していきます。

また今後は、関連会社についても目標数値を定め、活動を強化して取り組んでまいります。

産業廃棄物発生抑制・排出量削減・ゼロ・エミッション化の目標（クボタ単体）

ゼロ・エミッション化目標

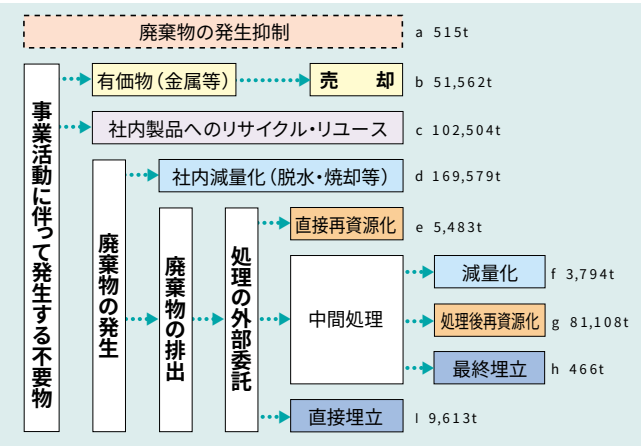
定　　義：社内・社外の埋立廃棄物「ゼロ」
- 「ゼロ」とは廃棄物の埋立を原則1%以下に削減することをいう。
- 自らが排出事業者になっている廃棄物を対象にする。

達成目標：鋳物系・機械系事業所・工場……2003年度
その他所・工場……2005年度

廃棄物発生抑制・排出量削減目標

廃棄物の排出量を、2005年度に2000年度比10パーセント削減する。

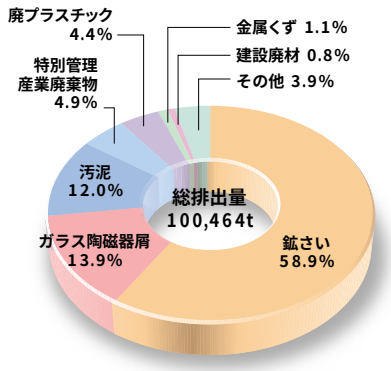
2001年度循環資源処理フロー（クボタ単体）



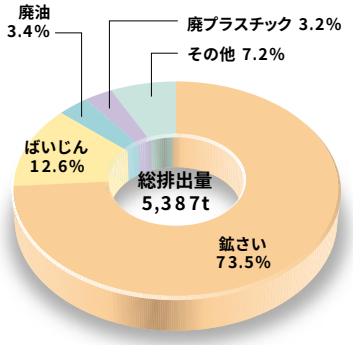
注）今年度より再資源化率の算出方法を一部変更しています。
- 再資源化率（%）＝(b+c+e+g)÷(b+c+e+g+h+i)×100
- 中間処理に伴う減量化量、処理後再資源化量、最終処分量は委託先への調査結果です。
- 流通回収廃棄物は除外しています。

2001年度クボタグループ産業廃棄物排出量と内訳

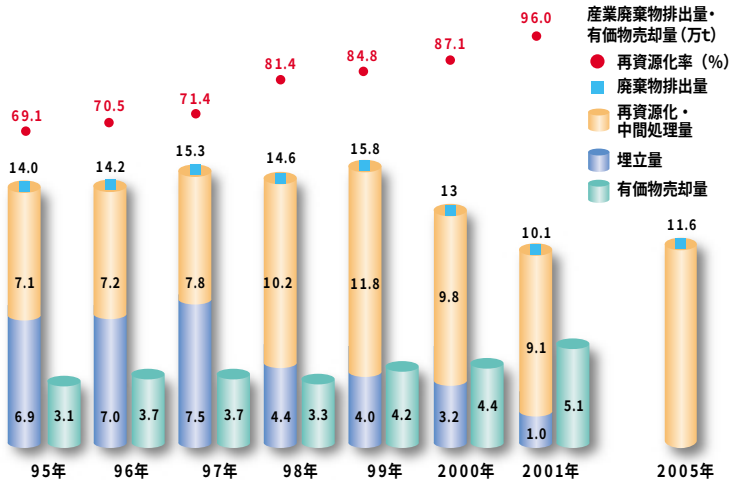
クボタ単体



関連会社



産業廃棄物排出量・有価物売却量・再資源化率推移（クボタ単体）

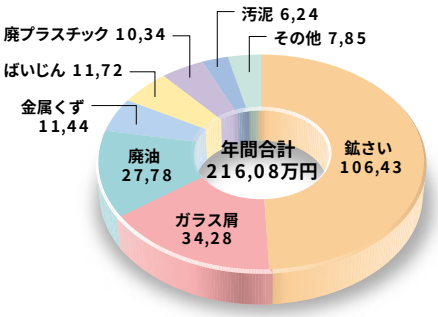


3R実施に伴う金額効果（2001年度）

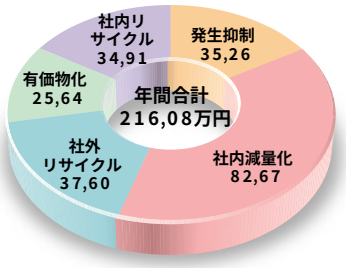
3R実施によるコスト低減効果（クボタ単体）

発生抑制・減量化・再資源化による産業廃棄物委託処理費用および原料等購入費の低減、有価物の売却等により、年間216百万円のコスト低減効果を生み出しています。

種類別コスト低減効果



対策別コスト低減効果



リデュース、リユース、リサイクル（3R）の実施内容

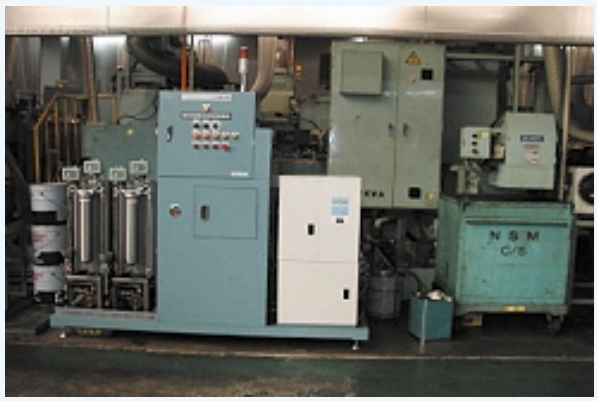
リデュースの取組み事例

洗浄廃液の発生抑制（堺臨海工場）

下記の対策を実施することにより、クーラント液の交換頻度が少なくなり、洗浄廃液の発生抑制につながりました。

① 切削液をアルカリイオン化し液の腐敗防止
② 集中クーラントの設備保全の徹底
③ 切削液、洗浄液中の浮上油を油回収装置で除去
④ 機械加工時に発生する浮上油、微細な切粉が切削液中に混じるので切削液タンクを改善して、油回収装置で浮上油とスラッジを同時に回収するようにしました。

効　果：121t／年



切削液のアルカリイオン化設備

リユースの取組み事例

手袋・ウエス類の再使用（恩加島工場）

従来、油を含んだウエスや皮手袋は、廃油と同じ処理会社により、処理を行っていましたが、洗浄会社との連携により、ウエスや皮手袋のクリーニングによる再利用を実施し、廃棄物の発生抑制と、資源の有効利用を実施しました。

効　果

ウエス：1200枚／月

手　袋：　100双／月

(注)写真の右側は使用済み、左側はクリーニング後を示す。

ウエス

皮手袋

リサイクルの取組み事例

砥石のリサイクル（武庫川工場）

従来、廃砥石は埋立処分を行っていましたが、砥石メーカとの連携により

① メーカでの広域処理の許可取得により、メーカでリサイクルを実施し、リサイクル砥石を購入。
② 廃砥石の有価物売却化

を実施しました。

効　果：43t／年

廃砥石

リサイクル砥石